
クセになる

水橋 唯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
クセになる

【Nコード】
N8529Z

【作者名】
水橋 哩

【あらすじ】
小説というよりは、詩寄りです。というか、誌に片足と顔面突っ込んでます。

何も無い所でつまづく。

段差の無い所で転ぶ。

何気なく壁にぶつかる。

そういえば、これは全部お前の癖だったっけ。

知らないうちに、移ってしまったみたい。

前はこんなこと無かった。

そうやって、つまづき、転び、ぶつかる、

お前を見てあざ笑っていたのが俺だった。

そうやって笑うのが俺のクセだと思っていた。

それが俺の日常風景だったはずだが、

いつの間にやら、癖が書き換えられてしまったようだ。

直さなければ、色々と社会生活に不都合が出る。

現に、珍奇な目で私は見られるようになった。

非常に宜しくない。

俺はあざ笑われる側になっていた。

でも、まあ、仕方ない。

長い付き合いだから、癖も移るぞ。

しょうがない、しょうがない。

どうしようもない奴だから、他に行き場も無かるぞ。

こんな癖くらいはどつとどつといふことは無いのだ。

珍獣は珍獣同士仲良く…

「…」

「…アレ？」

ふと、気付く。

いや、気付いてしまった。

転んでいるのは俺だけだった。

取り囲むのは社会の冷たい上から視線だけ。

転んで、つまづいていた俺の視線と同じ高さの視線が見当たらない。

日常がどっかに行った。

残ったのは珍妙な癖だけ。

俺が臥せっている間に、お前はどっかに行ってしまったようだ。

まあ、これで、珍妙な癖はいずれ消えるだろう。

そう思っていた。

でも、結局、抜けやしなかったし、消えやしなかった。

どうやらクセになっていたらしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8529z/>

クセになる

2011年12月26日22時55分発行